

立野ヶ原遺跡群に思うこと

とっておき埋文講座①

はじめに

10月5日から本年度の特別展「旧石器時代とはどのような時代だったのか!」が始まります。現在は、その準備の真っ最中です。

昨年(2017年)は、昭和52年(1977年)に開所した富山県埋蔵文化財センターの40周年、3月には富山県で初めて(しかも同時に3件)考古資料が県指定有形文化財になりました。指定されたのは、いずれも旧石器時代の出土品で、このうちの2件が南砺市の立野ヶ原遺跡群のウワダイラI遺跡と立美遺跡からの出土品です。

県埋文センターの40周年・旧石器時代資料の県文化財指定・旧石器時代の特別展、これらは何のつながりも無いように見えて、つながっています。

日々の出来事や歴史には、必ず経緯があります。経は、「たて糸」、緯は「よこ糸」です。何気ない事がたて糸とよこ糸が組み合わさるように、日々を織り成し、歴史を織り成し後世につながります。特別展の準備をする中で、個人的に「ここにつながったか」という思いをしたので、今回はそのことを書きたいと思います。

立野ヶ原の発掘調査

当センターの40年を振り返る作業と今回の特別展の準備をする中で、あらためて県が行政発掘(公的機関が開発等に伴い行う発掘調査)を始めた頃からの発掘調査報告を見返す機会を得ることとなりました。

行政発掘は、多くの場合が開発に先立つ調査であるため、原因となった開発事業名が目立つことが往々にしてあります。例えば、「〇〇〇〇自動車道の調査のときに…」や、「〇〇〇〇運動公園建設の調査で…」とか、開発事業名を付けた方が、どの遺跡の話をしている

のかが通じやすいのです。

立野ヶ原地区の場合は、「県営立野ヶ原地区総合パイロット事業」という農地改良事業が原因でした。パイロットというと、飛行機を操縦するパイロットが頭に浮かびます。県埋文センターでは「立野ヶ原パイロット事業」と省略されて呼ぶことが多いため、いったい何の事業なのかさっぱり分かりません。英語のパイロットには、他にも「水先案内人、指導者、指針」などの意味があり、いわば先駆けとなり、将来の指針を示すような試験的事業の意味でしょうか。



昭和49年(1974年)の立野ヶ原台地(東より)



同上(南より)中央に見える池は桜ヶ池

ともあれ、この大規模な事業の完了目標は昭和51年(1976年)、しかし、発掘調査が始まったのは、昭和47年(1972年)でした。しかも事業の対象面積は480haにも及びます。

旧福光町と旧城端町にまたがって広がる立野ヶ原台地には、100箇所を超える多くの遺跡があります。

当時、県では昭和44年(1969年)に初めて専門職員(調査員)を採用したばかりで、この当時はまだ数名です。しかし、開発は待たないです。当時の調査員達は、ブルドーザーに追われるようにして、調査をしたと聞きました。(この辺のことについては、『埋文とやま』第88号(平成16年10月1日発行)の「埋文あらかると立野ヶ原遺跡群」で紹介されています。)今からは想像もできませんが、高度経済成長期の勢いの中、いまだ戦後復興という言葉も最近のことのように感じられた時代です。

開発工事と追いかけてやるように調査員達は頑張りました。その後、県内で活躍することになる考古学を学ぶ大学生たちの力も借りました。

現在こそ、文化財に光があたり、多くの方々に関心を持ってもらえるようになりましたが、当時は、開発が優先され、特に工事の遅れの原因とされかねない埋蔵文化財には逆風の時代でした。

そんな中、懸命に遺跡の記録保存という形で埋蔵文化財を護った当時の調査員達の努力と苦労は想像に難くありません。

そもそも文化財とは、その地域の風土・歴史が育んだ「文化」の産物で

ある「財(たから)」であり、埋蔵文化財は土地に埋蔵された大事な文化財なのです。調査から40年以上を経て、調査員達が護った文化財は県指定文化財になりました。

立野ヶ原台地に刻まれた歴史

立野ヶ原台地の近代の歴史は、明治時代の後半に当時の情勢を受けて陸軍演習場が設置されました。立野ヶ原という呼称は、演習場設置にあたり、東太美村の立野新にあった全戸が立ち退きにあったことに由来します。(『福光町史』)

陸軍演習場であった歴史を物語るものに「監的壕」があります。監的壕とは、「砲弾の命中率や性能などを近くで観察するための施設」(南砺市HPより)です。現在、この監的壕は旧福光町・旧城端町にあったものが1基ずつ南砺市指定史跡となっています。

昭和48年(1973年)に当センターで発掘調査をしていた際に撮影した監的壕の写真が保管されていました。当時と今の様子を見比べてください。

太平洋戦争終戦後には開拓団が入植し、開拓が始まりました。元々の住民と開



昭和48年(1973年)当時の監的壕



現在の監的壕(南砺市提供)

拓団により開墾は進められましたが、いよいよ昭和36年(1961年)に国が定めた「開拓パイロット事業実施要綱」に基づき、同事業の対象地に選定され「県営立野ヶ原地区総合パイロット事業」は始まりました。

立野ヶ原遺跡群

さて、前置きが長くなってきましたが、「県営立野ヶ原地区総合パイロット事業」に先立つ発掘調査は、対象地が広く、遺跡も多くあり、発掘調査は昭和47年～昭和52年の6年間にわたり続き、その発掘調査の概要報告は6冊刊行されました。1年次は『富山県福光町 鉄砲谷・向山島・是ヶ谷遺跡発掘調査報告書』として刊行されました。これが「立野ヶ原遺跡群の第1次緊急発掘調査報告」にあたり、その後は『富山県福光町・城端町 立野ヶ原遺跡群第〇次緊急発掘調査概要』として、第二次～第六次までの概要報告がなされました。

6年間に100箇所以上の遺跡が調査され、その中には旧石器時代の遺跡が多くあり、今回の特別展で紹介する主な県内旧石器時代遺跡約50箇所の内の10箇所以上が「立野ヶ原遺跡群」にあります。

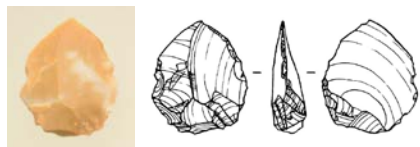
立野ヶ原遺跡群の旧石器時代遺跡の特徴としては、とても浅いところでユニットや石器の出土を確認できることです。当時の発掘調査の写真を見ても、表土から数十センチも掘り下げていないことが分かります。



立野ヶ原遺跡群発掘調査報告書

また、ウワダイラI・L遺跡や西原C遺跡から出土した小型ナイフ形石器は、立野ヶ原の名を冠して「立野ヶ原型ナイフ形石器」と呼ばれ、数々の考古学関連の解説書等に登場します。

現在では、「立野ヶ原型ナイフ形石器」という名称が使われることは少なくなっているようですが、「立野ヶ原」が考古学史にもその名を刻んだことには変わりありません。



立野ヶ原型ナイフ形石器の代表例

旧石器時代の人々が生きた土地は、縄文時代やその後の時代にも人々が営みを繰り返し、戦争に向かう時代の流れの中で、その土地を離れざるを得なかった人々の思いから「立野ヶ原」という呼称に歴史を刻み、その後の発掘調査で出土した石器にも「立野ヶ原」の名前を残しました。「立野ヶ原」は、県埋蔵文化財センターの歴史にとっても忘れることのできない遺跡であり、貴重な文化財です。

(境 洋子)

遺跡名	調査年	遺跡名	調査年	遺跡名	調査年	遺跡名	調査年	遺跡名	調査年	遺跡名	調査年
1 有田ヶ原A		21 ウワダイラO	1974	41 神明原B	1976	61 中尾台D	1977	81 中地山B	1974	101 南原D	1973
2 有田ヶ原B	1974	22 ウワダイラP	1974	42 神明原C	1977	62 中尾台F	1977	82 七曲	1971	102 南原E	1973
3 有田ヶ原C	1974	23 ウワダイラQ	1974	43 立美	1974	63 中尾台I	1977	83 西原A	1976	103 南原F	1976
4 有田ヶ原D	1975	24 大西	1973	44 立美A	1976	64 中尾台J	1977	84 西原B	1976	104 南原G	1977
5 有田ヶ原E	1977	25 開発田A		45 立美B	1975	65 中尾台K	1977	85 西原C	1976	105 南原I	1976
6 ウワダイラA	1973	26 開発田B	1973	46 立野新A	1975,76	66 中尾台L	1977	86 西原D	1976	106 南原J	1976
7 ウワダイラB	1973	27 開発田C		47 立野新B	1977	67 中尾台M	1977	87 西山A	1974	107 南原K	1976
8 ウワダイラC	1975	28 京塚	1977	48 立野新C	1977	68 中尾台N	1977	88 西山B	1975	108 南原L	1977
9 ウワダイラD I	1975	29 京塚A	1977	49 立野新D	1974	69 中尾台O	1977	89 西山C	1975	109 南原M	1977
10 ウワダイラD II	1975	30 京塚B	1977	50 立野新E	1974	70 中尾台P		90 西山D	1975	110 南原N	1977
11 ウワダイラE	1975	31 是ヶ谷A	1973	51 立野新F	1974	71 中尾台Q		91 番人原A	1975	111 幸台A	1977
12 ウワダイラF	1973	32 是ヶ谷D	1972	52 立野新G	1974	72 中台A	1974	92 番人原B	1975	112 幸台B	1977
13 ウワダイラG	1973	33 坂ズリ		53 立野新H	1974	73 中台B	1974	93 番人原C	1975	113 幸台C	1977
14 ウワダイラH	1973	34 笹倉	1974	54 立野新I	1976	74 中台C	1974	94 番人原D	1976	114 向山島	1972
15 ウワダイラ I	1974	35 二郎江門堂台A	1973	55 立野新J	1977	75 中台D	1974	95 万年台A	1976		
16 ウワダイラJ	1973	36 二郎江門堂台B	1973	56 立野新K		76 中台E	1974	96 万年台B	1976		
17 ウワダイラK	1973	37 二郎江門堂台C		57 鉄砲谷	1972	77 中台F	1974	97 万年台C	1975		
18 ウワダイラL	1973	38 二郎江門堂台D		58 中尾台A	1974	78 中台G	1975	98 南原A	1973		
19 ウワダイラM	1973	39 二郎江門堂台E		59 中尾台B	1974	79 中平	1975,76	99 南原B	1973		
20 ウワダイラN	1973	40 神明原A	1976	60 中尾台C	1974	80 中地山A	1974	100 南原C	1976		

立野ヶ原遺跡群一覧表『富山県福光町・城端町 立野ヶ原遺跡群第六次緊急発掘調査概要』1978年掲載を改変

※順番は、五十音順
※調査年が空白の遺跡は、昭和52年(1977年)現在で未調査の遺跡